知りたい　読みたい　Newspaper In Education　教育に新聞を

なぜ？なに？探偵団

縄文人は別の地域とどんな交易？

ターゲット記事

広島県神石高原町の帝釈大風呂洞窟遺跡で今夏、縄文後期（約4千年前）の石器剥片約10点などが広島大の発掘調査によって見つかりました。この地域ではとれない石で作られ、縄文人が別の地域と交易をして手に入れたと考えられています。

（8月14日付朝刊11面から）

海を渡りリレー方式で物々交換

夏は深緑、秋は紅葉が渓谷を彩る帝釈峡（神石高原町、庄原市など）。みなさんも旅行で訪れたことがあるかもしれません。ここには、はるか昔の人々が暮らした痕跡もたくさん残っています。帝釈峡遺跡群と呼ばれ、洞窟や岩陰などに計55遺跡が点在しています。

遺跡群では1962年から広島大が発掘調査を続けています。とりわけ縄文時代（約1万6千年～約2400年前）の遺跡が多く、「縄文人の暮らしがパックされている」と全国の研究者から注目されています。

50年続く発掘調査で、シカやイノシシの骨、石で作った矢の先端やナイフのような石器、煮炊き用の土器などが見つかっています。縄文人は身近な山や川の動物を狩り、食料にしていたようです。ただ石器材料になる石は、帝釈地域にないものがたくさん含まれ、遠方の地域から手に入れたことが分かっています。

●○●

石の種類はサヌカイト（安山岩）や黒曜石です。原産地を調べる科学分析の結果、サヌカイトは香川県・金山産が多く、広島県・冠山産も少し含まれていました。黒曜石は島根県・隠岐産が中心で、大分県・姫島産も少量ありました。いずれも打ち割ると鋭い刃になり、縄文人にとって便利な石だったのです。

ところが帝釈峡は中国山地の真ん中。瀬戸内海や日本海まで直線距離で約60キロ、最も遠い姫島は約200キロも離れています。遺跡群の発掘調査に携わる広島大大学院の竹広文明准教授（考古学）は、縄文人たちは丸木舟などで海を渡り、物々交換をしながらリレー方式で生活物資を手に入れる「交易ネットワーク」をつくっていたとみています。

リレー中継点の一つと考えられるのが、瀬戸内海に近い洗谷貝塚（福山市）です。持ち運びしやすい弁当箱大の香川県・金山産サヌカイトの塊が見つかりました。同じサイズの塊が帝釈峡遺跡群でも発見されています。帝釈地域の縄文人は、こうした石と、地元の動物の骨で作った装飾品や毛皮などと交換していたと推定されています。

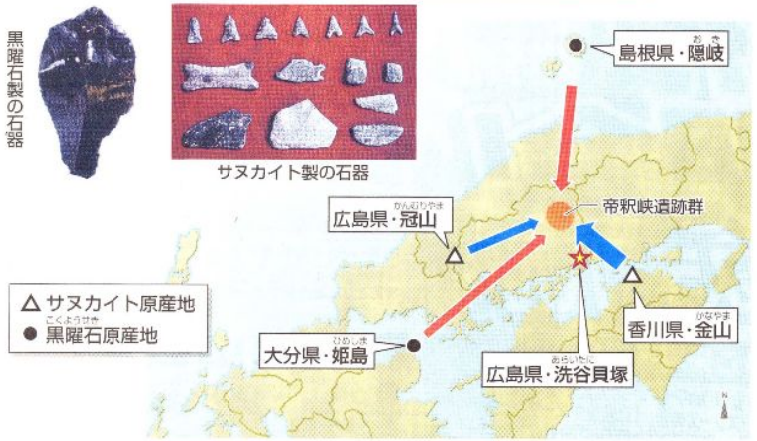
●○●

交易品は他にもあったようです。帝釈地域では、海にすむ貝の殻を加工した貝輪など首や腕の装飾品も多く見つかっています。縄文人はダイナミックに動き回り、暮らしを豊かにする物や情報を得ていたのです。地域の歴史を調べることで、いにしえの知恵や工夫を実感できます。

帝釈峡遺跡群で見つかった石器や土器の一部は博物展示施設「時悠館」（庄原市東城町）で紹介しています。夏休みも残りわずか。縄文人の暮らしぶりに触れてみてはどうでしょうか。

（林淳一郎）

帝釈峡遺跡群の石器材料の原産地



なぜ？どうして？

- 帝釈峡遺跡群の石器材料は四国や九州などからもたらされた。縄文人が舟で運び、物々交換した交易ネットワークがあったと考えられているんだ

ここがキーワード

帝釈峡遺跡群…1961年に発見。洞窟や岩陰に51カ所と開けた場所に4カ所の計55遺跡が約20キロ四方に点在する。旧石器時代から中世まで2万年以上にわたる年代の動物化石や遺物が見つかっている

サヌカイト…火山の噴火でできた岩石。表面は濃い灰色などをしている

黒曜石…火山岩の一つ。黒く光沢があるのが特徴

遺跡には昔の人々の暮らしが刻まれている。地域の歴史を知るため、発掘調査の成果が期待されているよ